

elysia



プラグイン・マニュアル

mpressor

WELCOME



はじめに



皆様へ...

... mpressor プラグインをご使用いただき、誠にありがとうございます。

“バーチャル” mpressor は、我々の有名なクリエイティブ・コンプレッサーの実物に限りなく近いエミュレーションです。すべてのディスクリート回路や、キャラクターなど、すべて念入りに詳細な部分までソフトウェア上で再現されています。

その結果、ホスト・ソフトウェアの可能性をかなり強化することができる優れたコンプレッサー、並びにダイナミクスエフェクト・マシンです。

プラグインは、様々な方法で組み合わせることができるハードウェアの素晴らしい機能を提供してくれます。

ハイグレードなコンプレッサー、1 つの機材で感動的なダイナミクス処理が行えるフレキシブルなツール: mpressor は、これらを実現します。

さあ、お楽しみください！



- ① **Floor:** mpressor のアナログノイズフロア・エミュレーションのオン/オフを決定します。
- ② **Link:** 左右のチャンネルはステレオ・トラックでリンクして使用することができます。
- ③ **Active:** プラグインをバイパス - アクティブ間で切替えます。
- ④ **GRL:** ゲインリダクション・リミッターの活動状況を表示します。
- ⑤ **Meter:** ゲインリダクション量を dB 単位で表示します。
- ⑥ **Threshold:** インプットレベルがこの値を超えるとコンプレッションが始まります。
- ⑦ **Attack:** コンプレッサーのトランジェント・レスポンス。mpressor がピークに対して反応する時間を決定します。
- ⑧ **Auto Fast:** セミオートメーション。高速、大音量のシグナルに対し、自動的にアタックタイムを短縮します。
- ⑨ **Release:** コンプレッサー効果の持続時間を決定します。コンプレッサーのゲインリダクションがユニティゲインに戻るまでの時間をコントロールします。
- ⑩ **Anti Log:** リリース・カーブの特性。リリース・カーブの進行キャラクターを切替えます。
- ⑪ **Ratio:** インプット・レベルとアウトプット・レベルのリレーション。mpressor の特徴として、ネガティブ・レシオもここで設定します。



コントロール



- ⑫ **EQ Gain:** Niveau フィルターのキャラクター。中心よりも左に回すと低域がブーストされ、高域がカットされ、逆方向に回すと逆の効果が得られます。
- ⑬ **On:** Niveau フィルターをアクティブにします。信号経路内では、この EQ は、コンプレッサー部の後ろに位置するので、このセクションの動作に影響を与えません。
- ⑭ **EQ Freq:** Niveau フィルターの中心周波数。この中心点を基準に低域、または高域がブースト/カットされます。
- ⑮ **x10:** Niveau フィルターの周波数レンジをシフトします。26 Hz ~ 2.2 kHz と印字されている値は、10 ~ 260 Hz と 22 kHz へと乗算されます。
- ⑯ **GR Limit:** バーチャル・コントロールボルテージをリミッティングします。この新しいリミッターは、通常通りのシグナルパスに位置していますが、コンプレッサーのコントロール・アルゴリズムではありません。
- ⑰ **On:** ゲインリダクション・リミッターをアクティブにします。
- ⑱ **Gain:** “メイクアップ・ゲイン”。mpressor でのアンプリフィケーションは、インプット・ステージで行われます。したがって、プラグイン全体を故意にドライブさせることは難しくなります。
- ⑲ **version:** elysia ロゴをクリックするとインストールしているプラグインのバージョンとプロジェクトに関わった人々のクレジットを確認することができます。



コントロール



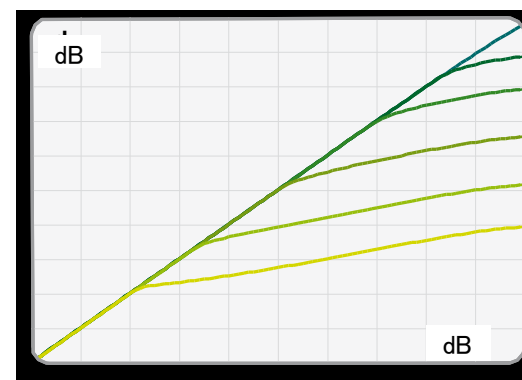
スレッシュホールドはコンプレッサーの動作点を決定します。入力レベルがこのコントロールで設定した値を超えるとコンプレッサーが動作を始めます。

スレッシュホールドとレシオの設定は、常にカップルとして考えるべきです。: 高いレシオに設定した場合、スレッシュホールドはゲインリダクションの行き過ぎを起こさないために低めの値に設定すると良いでしょう。

低いレシオに設定された場合、原則としてスレッシュホールド・ノブはより右回り方向に設定します。

完全なコントロール・レンジは、繊細なプロセッシングから極端なセッティングまで多様性を提供し、合計 34 dB をカバーしています。

右の図は、mpressor の異なるスレッシュホールド・ポイントを表示しています。



固定したレシオでいくつかのスレッシュホールド・セッティング

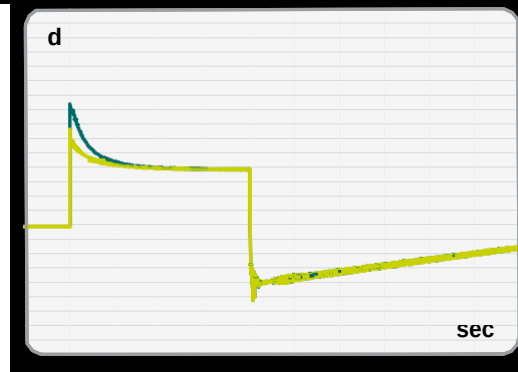


アタックタイムの値は、コンプレッサーの動作上、非常に重要な要因となります。右図のようなセッティングを行うことが重要ですが、素材のダイナミクスの進行状況に応じて難しい場合があります。

非常に短いアタックタイムを設定した場合、コンプレッサーは、短いピークを検出することができますが、その一方で処理後のサステイン成分に歪みをもたらす場合があります。長いアタックタイムの設定では、歪みを軽減しますが、その場合は、速いインパルスに対して反応が遅ずぎます。

その場合はオート・ファースト機能を活用してください。このモードを使用すると速くて大きいシグナルに関しては、自動的にアタックタイムが短くなります。

その後、アタックタイムは自動的に元の設定に戻ります。このようにコンプレッサーは、本当に必要な場合にのみアタックタイムを非常に速くすることができます。アタックタイム・パラメーターは、短く、大きなシグナルに影響を受けますが、その他の場合では、コントロールの設定が優先されます。



標準的なアタック(緑)、オートファースト(黄緑)



コントロール

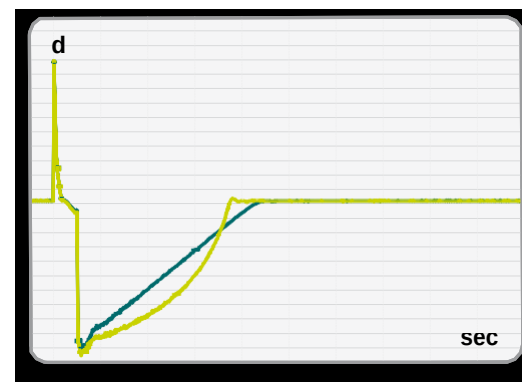


リリースは、聴覚に対して明確な、または目立たないというコンプレッションのキャラクター上で強い影響力があります。コンプレッサーに控えめなパフォーマンスが求められる場合、原則的にリニア、または対数のリリース・カーブを使用してください。

対数リリースの特徴は、ゲインリダクションが上がるとリリースタイムが短くなります。この利点は、短い、または大きなピーク(例:ドラム)の音は速いリリースタイムで処理され、その他の素材は遅いリリースタイムで処理されるということです。

しかし、意図的に印象的なコンプレッションだけでなく新しいサウンドを求めた場合、標準的な使用方法と逆アプローチを行うことも意味があります。この理由のために mpcompressor のリリースカーブは、リニアか対数まで切り替えることができます。

逆対数のリリースカーブと比較して“Anti Log”オプションの効果は、反対に動作します。:スレッシュホールドを通過した場合、リリースタイムは短くなりません。インプット・シグナルが低下し始めた時にリリースタイムが速くなります。



標準的なリリース(緑)と“Anti Log”(黄緑)



コントロール



mpressor は右図のように典型的なハードニーのコンプレッサーです。コンプレッションは、インプット・シグナルがスレッシュホールドを超えた瞬間にフルレシオでかかり始めます。

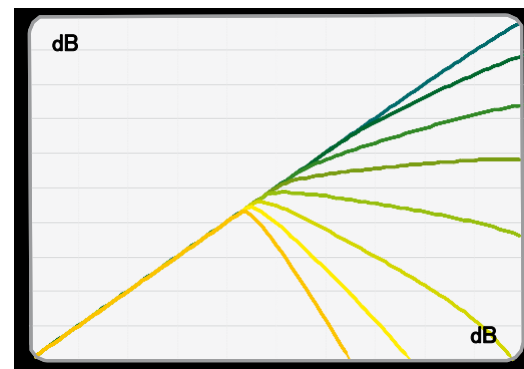
ソフトニーと比べて、このタイプのコンプレッションは、効果が聞き取りやすくなります。

mpressor はネガティブな値のレシオも使用可能です。— これにはどんな意味があるのでしょうか？ネガティブ・レシオでは、カーブの曲がり方は、スレッシュホールドを超えた後に戻ります。

このようなセッティングでは、インプット・シグナルが大きくなるほど出力レベルが低くなります。グルーヴィーなコンプレッションに最適と言えます。

極端に破壊的なサウンドを引き起こす可能性がある場合、ゲインリダクション・リミッターを使用するのは良いアイデアと言えます。

mpressor のこの特別な機能は、理論的には理解し難いかもしれませんが、しかし、いくつかのドラムサンプルで試すことですぐに理解できるはずです。



異なるレシオのセッティング(ネガティブ値を含)



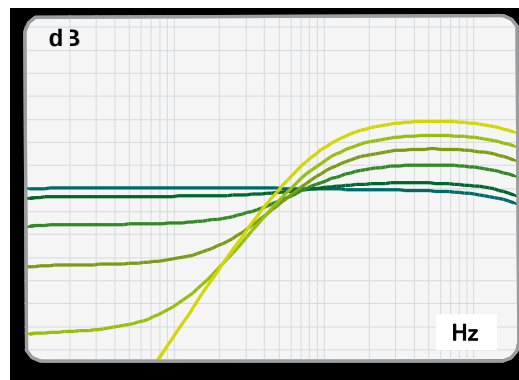
コントロール



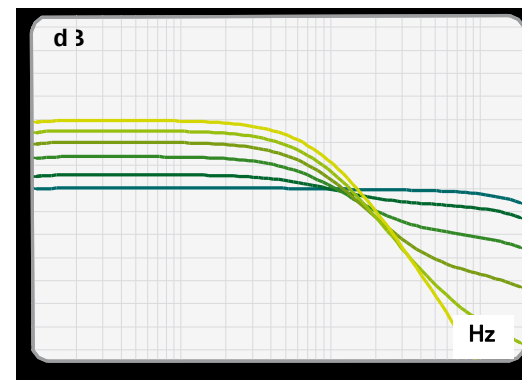
このフィルターは、簡単に使用でき、トラック全体の雰囲気を変えることに特化しています。

主な機能は、高域と低域の割合を変更することです。原理は一對のペアのようになります。: 可変中心周波数を中心にゲイン設定に応じて高域がブーストされ低域がカット(またはその逆)が行われます。

EQ のゲイン・コントローラーが極端な位置にある時のフィルターの特徴の変化: 完全に左回りにある場合、ローパス・フィルター、右回りの場合はハイパス・フィルターとなる。



0～ハイポジション間のEQゲインセッティング @500Hz



0～ローポジション間のEQゲインセッティング @1.5kHz



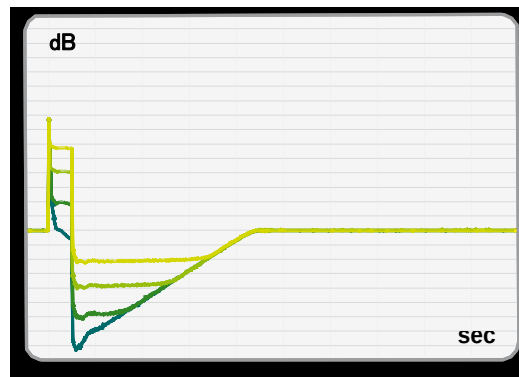
コントロール



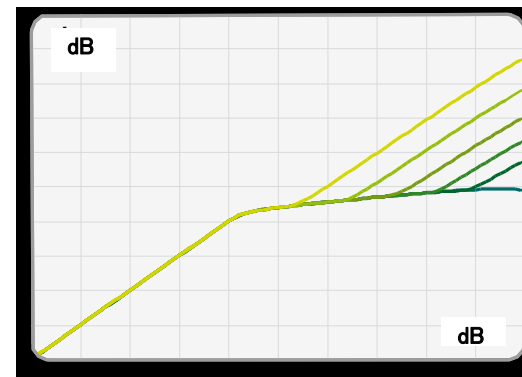
mpressor プラグインはゲインリダクション・リミッターが特色です。このリミッターは、オーディオパスに置かず、コンプレッサーのコントロールパスに置かれます。

効果：インプットレベル、またはスレッシュولدとレシオのセッティングがどんなに高くてもゲインリダクション量は GRL コントローラーでセッとした値を超えることはありません。

大きなサウンドの部分は、ダイナミクスを維持し、ダッキングのような特殊効果や上向きのコンプレッションによって小さなサウンド部分を減少させることができます。



異なる GRL セッティングでのコンプレッションの進行状況



異なる GRL セッティングでの入出力レシオの変化



コントロール



ゲインコントロールは、コンプレッションしたシグナルのレベル差を補うために使用します。すでに予想できるかと思いますが、この“標準的な”コントローラーに特別な機能が備わっています。

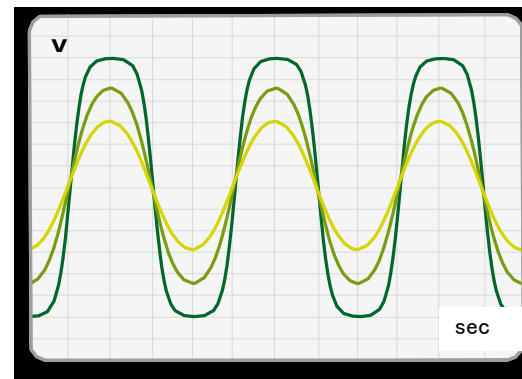
ゲイン量が多いほど多くのハーモニクスが生成されます。mpressor では、この機能を直接インプットステージに置くので、加えられたハーモニクスは、コンプレッサー・アルゴリズムで処理されます。

右図では、振幅を増加させることで mpressor プラグインに起こるサチュレーションを表しています。

それは明らかにオリジナルのサイン波にスクエア波を加え、エッジの聴いたサウンドを成形する方法を示しています。これは、ハーモニクスを加えることでリッチなサウンドが得られます。

シグナルをクリーンに保ちたい場合、ゲインを上げないようにし、mpressor の後ろに繋ぐゲイン・プラグイン等でゲインを稼ぐ必要があります。

しかし、ハーモニクスを加えたい場合には、mpressor のゲインを上げ、全体的なレベルをコントロールするために後ろにつないだゲイン・プラグインを使用してください。



いくつかの振幅でのサチュレーション特性



コントロール



FLOOR

mpressor のアナログ・ノイズフロアのエミュレーションのオン/オフを切替えます。

LINK

リンクモードでは、左右両方のチャンネルの情報を使用して両方のチャンネルに適用する“バーチャル・コントロールボルテージ”を生成します。(このケースは真のステレオコンプレッサーです)

リンクモードがオフの場合は、同じコントロールのセッティングでも左右のチャンネルに別々の“バーチャル・コントロールボルテージ”が生成

されるデュアルモノ・コンプレッサーとして動作します。

それがどういう意味を持つのか？ — 答えを知るには、リンクを外してステレオ・コンプレッサーを使用することによってトラックにより、躍動感を得られる場合があります。これは双方のチャンネルが互いに違うコンプレッションを行うからです。(左右のチャンネルが異なるシグナルであった場合)

MONO

モノ・チャンネルではリンク機能は使用できません。リンク・ボタンは、半透明になり、使用できないことを示します。

ACTIVE

このボタンに隠された機能はありません。:これは、mpressor のオン(点灯)、オフ(消灯)を切替えます。

ところで:ハードウェアの mpressor は、ユニットがバイパスになっていてもゲインリダクション・メーターはアクティブになったままです。しかし、ソフトウェア・バージョンでは、技術的な理由でこの機能を再現していません。



セッティング



パラメーターをバランスのとれた調整が行えるために mpressor 日常的なスタジオ・ビジネスで多くの用途に最適と言えます。

上図のセッティングは、ボーカル、コーラス、ギター、ドラム、キーボードなどに“ノーマル”なコンプレッションを行うスタート位置を提供します。

1:2 ~ 1:5 の間で適度なレシオ、そして 300ms 程度のリリースタイムは、パラメーター調整を始める基礎として調度良いでしょう。スレッシュホールドは、望ましいゲインリダクションを得るために調節してください。

mpressor は、ハードニー設計であることを忘れないで下さい。これは、繊細なコンプレッションを必要としている場合、適切な設定が必要となることを意味しています。

EQ セクションは、素材に応じて大きな利点を加える事ができます。これはす小出しだけの時間を費やして mpressor の特徴をよく知ることによって効果的に使用できるようになります。

ゲインリダクション・リミッターも新しい可能性を提供することができるので、すぐにでも試してみてください。

超高速アタックタイムや、ネガティブ・レシオを使用することで極端なコンプレッションにつながる可能性があることを理解してください。

このケースでは、変わった効果を得られますが、実際に望んでいたものではない可能性があります。mpressor を使用して必要な効果を得るには、どのセッティングが必要な効果を得るために適しているか知るために時間を必要とします。

★すべての素材に提案している様々なセッティを調整する必要があります。スレッシュホールドとレシオの調整は特に重要です。



セッティング



ドラム・ミックスを mpressor で処理します。可聴トランジェントの強度は、アタックタイムで決定します。このパラメーターを短く設定するとシグナルの最初の数ミリ秒だけが強調されますが、長く設定するとオリジナルの構造に近づきます。

リリース・コントローラーは、音量を調節するために使用することができます。短めの設定では、大きめなシグナルとなりますが、長めの設定では、トラックのグルーブに影響を与えます。

高いレシオを設定した場合、この効果はより顕著になります。

ワイルド過ぎずエネルギッシュなドラム・サウンドを得るためにゲインリダクション・リミッターを使用することができます。

このドラム・サウンドは、ミックス内で光るアタックとパンチの効いたサウンドを生み出します。アンビエンスの量を増やすとトップの音を生成し、ラウドでマッシブなサウンドが得られます。

我々はハードウェアの mpressor ユーザーから多くの良いフィードバックを受けています。そしてこの 1 つのコメントを何度も聞きました。：“mpressor はドラムキラーです！”

ほとんどの人を釘付けにします。好きなドラム・サウンドにいくつかのトライをしてみてください。— それはコンプレッションに限らず、アンビエンス、トランジェント、音のキャラクターについてもです。

mpressor プラグインによって多くの恩恵を受けることができます。



セッティング



ドラムが極端にコンプレッションされ、ラウドに聞こえる場合、この設定は、ほとんどダイナミクスが残らないようにすべてのシグナルをリミッティングするために使用することができます。

アタック・パラメーターのオートファースト・機能では、mpressor が速く、ディストーション無く動作することを保証します。そして 50ms の速いリリースタイムは、サウンドの大きさに関係します。

レシオは、高速のブリックウォール・リミッターの一種のようになるよう 1:10 に設定されています。ドラムがルームマイクにフォーカスを合わせてレコーディングされたようになります。

:トランジェントはほぼ無く、多くのアンビエンスと長いサステインのタムとシンバル

この設定でプレーすると、ほぼリバーブのように mpressor を使用することができます。極端なセッティングをためらってはいけません。常に以下の手順を行うことで、コントロール下に置くことができます。:

別々のバスにコンプレッションしたシグナルとオリジナルのシグナルをルーティングしてミックスしてください。これは、この類いの使用方法でよく使用されるパラレル・コンプレッションです。

メイクアップ・ゲインを高い値に設定するとハーモニクスが得られ、パワフルなサウンドになることを覚えておいてください。

ステレオトラックを使用している場合、リンク・ボタンを外してみてください。その結果は、左右のチャンネルが完全に同じコンプレッションされないことになり、ヘビーなコンプレッション・トラックに新しい命を吹き込むことができます。



セッティング



mpressor はネガティブ・レシオも特徴としているので、奇抜なエフェクトを作り出すために使用することができます。:

シグナルが逆向きに再生されたように徐々に大きくなります。非常に大きなインプット・シグナルは、逆効果を作成する大きな量だけ減衰されます。

アタック・パラメーターのオート・ファースト機能は、素早く歪みのないコントロール処理を行うために使用します。リリースは、音の大きさをコントロールします。

アンチログ・モードは、逆効果の強度を増すために使用すると良いでしょう。

スレッシュホールド、リリースとレシオのバランスはこの効果を得るために重要です。このようなセッティングは稀に 20 dB を上回る量のゲインリダクションを簡単に実現します。したがって、ゲインコントローラーの適切な設定によって補正されなければなりません。

ここでも mpressor は、ダイナミクス・ツールだけでなく、パワフルなエフェクト・プロセッサであることを示します。

ドラムやスラップ・ベースなどのようなパーカッシブな素材にこのセッティングを試してみてください。— 期待したサウンドを異なりますか？

mpressor プラグインはサンプルを叩き潰すことに最適です。また、好みに応じてモジュレーション、ディストーションとディレイを加えてください。



セッティング



特別なタスクは、トーンや、コードの頭のトランジェントを強調することです。ゲインリダクション・リミッターは、このケースではとても重要です。選択したパラメーターの値は、かなり強めのコンプレッション量と速いリリース、ネガティブレシオになります。

リミッターなしでは、10 ~ 15 dB のゲインリダクションが定期的に起こり、シグナルはかなりコンプレッションされます。しかし、ここではリミッターのゲインリダクションの最大値を 6dB に軽減することができます。

ゲインコントロールが 6 dB に設定されている場合、信号は最初に 6 dB ブーストされ、

その後、0 dB にホールドされ進みます。

例えば、オルガンがこのように処理された場合、そのトランジェントが強調され、よりタイトなサウンドになります。シングルノートやコードを演奏しているか関係なく、一般的なコンプレッションのサウンドではなく、アウトプット・レベルは常に同じままになります。

この例では、mpressor は、シグナルのエンベロープに対して強い影響を与えていることを示しています。特定のパラメーターが、どのように関連しているか知るためには時間をかけて試してみてください。

そして mpressor をコンプレッサーとしてだけではなく、クリエイティブなエンベロープ・ツールとしても使用することができます。

また、エンベロープを調整した後に、Niveau フィルターによって、キックにさらなる効果を加える事ができることを覚えておいてください。



セッティング



非常に速いタイムコンスタンスを使用することで、mpressor は、スペシャルなディストーション・サウンドを作成することができます。そのためにアタックを最小の 0.01ms に設定し、リリースを最速の 5.0 ms に設定します。

コンプレッサーは、コンプレッション動作が非常に高速になり、ほとんどすべての 1 つの波形を別に作り出します。これはインプットシグナルのノイズフロアが増幅されるという通常の欠点がなく、ディストーションに似たサウンドに聞こえます。

メイク・アップゲインを高く設定するとハーモニッ

ク・ディストーション(THD)の量を増やし、さらこの効果を強くすることができることを覚えておってください。

これが原因で以降のステージにあまりにも多くのゲインを出力する場合、それを補正するために、ホストアプリケーションで mpressor の後にゲイン・プラグインを加えてください。

生成したディストーション・サウンドを Niveau フィルターによって、成形することも可能です。

ローパス・フィルター位置で使用した場合、素晴らしい Lo-Fi スタイルのサウンドを作ります。

特にベースやドラムはこの方法での処理に理想的な楽器です。

この特徴的なサウンドは、アンビエント・ミュージック、トリップ・ホップや多くのエレクトロニック・ミュージックのスタイルでの使用に最適です。



setting



ループにディレイとコンプレッサー — これは意味が無いと思いますか？この組み合わせは、面白い音を作ることができます。

まずは、mpressor の入力に AUX バス(AUX1 とする)を割り当てます。mpressor のアウトプットをディレイのインプットに送り、100%ウェットに設定し処理されたシグナルのみが送られるようにします。

このディレイの出力は聞こえますが、同時に AUX 1 にも送られています。

AUX 1 にお好みのソースを送ってください。コンプレッサーのゲインリダクションは、ディレイ音が繰り返すごとに大きくなるように設定されている場合、最終的にコンプレッサーにより安定したフィードバックループになります。

Niveau フィルターを周波数レスポンスのコントロールに使用している場合、非常にノイズでポンピングと連続して変化し続けるような効果が得られます。

5～30ms ほどの短いディレイタイムを設定するとシンセサイザーのようなオシレーティング・サウンドを生成することができます。

Niveau フィルターのコントローラーを回すと、ディレイのリピート音が周波数シフトしていきます。

フィードバックループについて詳しくはこの設定を難しく感じることはありません。初めて行う場合には、わかりにくいかもしれませんが、何度か試みることで次第に慣れることでしょう。

このセッティングがどのようなか見当もつかない場合は、弊社ウェブサイトで mpressor ハードウェアとプラグインを使用したデモサウンドをご確認ください。



セッティング



ハイクラスのミックスバス・コンプレッサーとして、ロックやエレクトロニック・ミュージックのような激しいジャンルに使用した場合、大きな価値を示します。

マスタリング時にハードウェアを使用しているクライアントを多数いらしゃいます。もし、同様の用途で使用する場合、mpressor はハードニーであり、多くのゲインを適用すると THD も同時に増加することを覚えておいてください。

穏やかなサウンドにしたい場合、慎重な設定が必要となるという根拠はここにあります。

ミックスの最初から mpressor プラグインを使用する場合には、ミックス時にそのようなサウンドに自動的に適用することは難しくないでしょう。

個々のトラックのレベル間の割合は、アクティブなコンプレッサーに同調します。ベーシックなサウンドが他の作品の“スタンダード”とは異なるサウンドに合わせていると仮定するならば、この種のミックスには意味があります。

ミックスしている曲にグルービーなポンピングを加えたい場合、これらがコンプレッション処理で行われるようにいつもよりも大きめにドラムをミックスしてください。

ミックスの中の他の静かな楽器は、ドラムと一体化し、グループと従い非常にビビッドなサウンドになります。

ここから先は、思いつく様々な方法で mpressor プラグインを試してください。新しいサウンドが発見できるかもしれません。このプラグインによってユーザーの皆さんが多くの楽しみを見つけられることを願っています。

elysia.com